

おわりに

石田
光



今回の教材研究は、グループによっては教育実習の準備期間中に、四回生にとっては教員採用試験の勉強の合間に行わなければならなかった。よって、教材研究には苦勞したメンバーが多かったように思う。しかし、本授業で「作者について学び、教材を客観的に解釈しながら読む」ことを訓練したからこそ、教育実習で教材を客観的に解釈できたのだと実感した。

本授業は、各グループで担当教材の教材研究を行い、解釈の仕方を授業で討論し合うものだった。十分に教材研究したつもりでも、討論すると、自分たちでは考えつかなかった解釈が展開されとても興味深かった。本授業から、同じ作品でもいろいろなとらえ方ができ、解釈の違いを楽しむことも文学作品を味わう一つの楽しみであることを学んだ。

「読書離れ」が問題となっている。この原因の一つに、「試験で点を取るための国語の学習」があるように感じる。今の子どもたちは、塾等で「試験で点を取る文章の読み方」に偏った解釈方法を学ぶ機会が多い。確かに試験で点が取れる文章の読み方の学習は必須だが、これだけでは「読み方の押しつけ」となり、国語がつまらないものとなってしまいかねない。学校教育での国語は、それに加えて「文学を自分の解釈で読み、楽しく味わう」経験も必要である。自分の解釈で文章を読み味わう経験が、「国語＝楽しいもの」となり読書離れの防止につながるのではないだろうか。「一文一文丁寧に読んで文章を解釈する。研究結果を皆で討論し、理解を深める。」という本授業での経験を活かし、子どもたちに「国語を読むことは楽しい」と伝えられる授業ができる教員になっていきたいと思う。

以上が私たちが本授業で学んだ内容である。本書が、本書を手にとっていただいた方々にも、何かしら役に立つことがあれば幸いである。最後に本書の発案者でもあり、全ての研究を監修してくださった寺田守先生に感謝の意を捧げたい。



2011 年度担当者



2012 年度担当者

執筆者

石田光
市川奈央子
井上小夜
梶原悠平
片岡文
加藤修治
河邊建
川村亮介
來住翔太
岸美位
日下部真依
口石梨絵
児玉萌
小林大希
小山明里
笹原愛
清水愛美
寺田守
田中大樹

田中麻佑子
谷口唯
千葉大暉
辻友葵
中寫一貴
中島大輔
中山莉麻
永安聡子
野田奏恵
邊見唯
帆足憲和
前原陽一
水上市織
溝口智大
宮河沙和
村井隆人
安福佳奈
柳井光一
山本舞

文学教材の解釈 二〇二二 電子版

編著 寺田 守

発行 二〇二二年一〇月一日 初版 発行

発行者 寺田 守

発行所 京都教育大学国語教育研究会

〒六一二―八五二二 京都市伏見区深草藤森町一

京都教育大学教育学部 寺田守研究室

電話 〇七五―六四四―八二三五

メール mterada@kyokyo-u.ac.jp